

証券コード 6524

クオリティ企業をめざして

2025年12月期中間期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2025年8月7日

目次

I. 2025年12月期中間期 業績ハイライト	P. 2
II. 2025年12月期中間期 業績	P. 6
III. リード端子事業の動向及び戦略	P. 18
IV. 光部品・デバイス事業の動向及び戦略	P. 23
V. 参考情報	P. 31

I. 2025年12月期中間期 業績ハイライト

2025年12月期(中間期)のハイライト

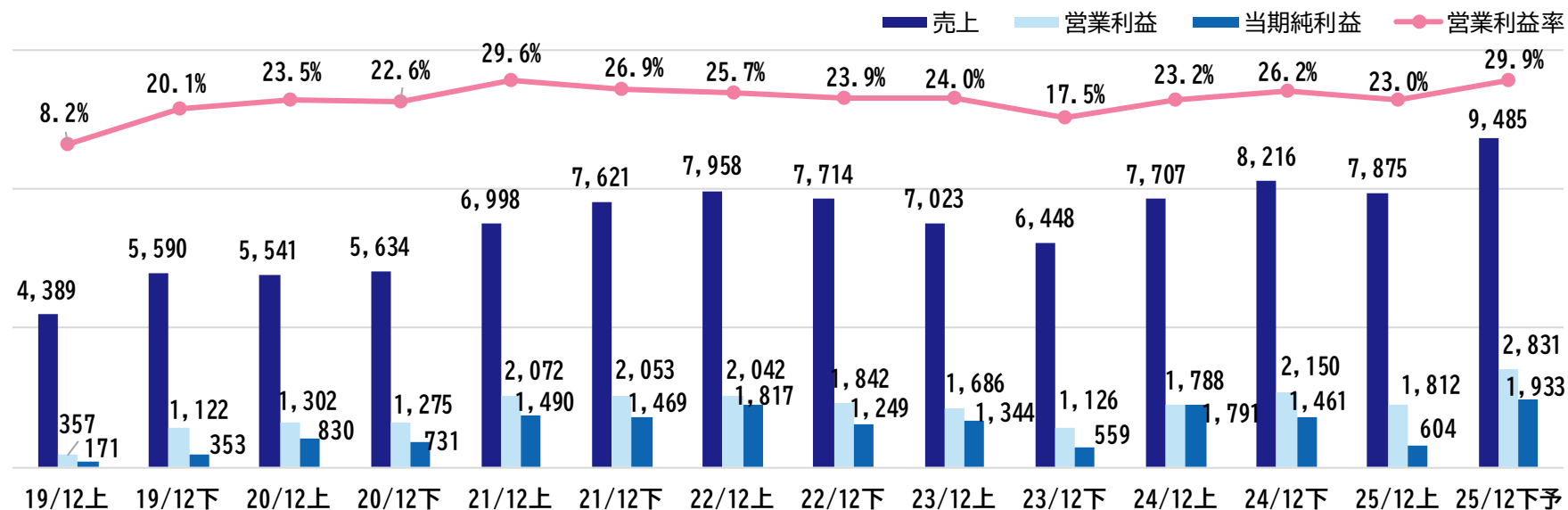
<業績概要>

- 上期の業績は前年同期比で売上が +2.2% (167百万円)、営業利益は +1.3% (23百万円) の増収増益
- 1 Qの売上は低調だったが、主力2事業共2 Qは改善傾向。また、リード端子での収益改善が計画に対し前倒しで進捗
- 為替差損の発生により当期純利益は前年同期比 -66.2% (1,186百万円) の減益

<事業環境>

- 海底ケーブル市場は、1 Qに個別要因による一部調整が発生したがその後回復、順調なケーブルプロジェクト投資を背景に引き合いは好調
- 情報通信インフラ市場では、生成AI・データセンタ市場が好調、両事業に対してプラスの影響
- 一方、民生機器市場は回復が弱い状態が継続、自動車関連市場も欧州市場・日本市場ともに回復が弱い状況が続いた

売上高、営業利益、当期純利益、営業利益率 (百万円、%)



損益計算書(中間期)の概要

本業では増収増益を確保

為替差損益の影響(△1,470百万円)などにより経常利益・当期純利益は減益

	＜前年同期比較＞				＜前四半期比較＞				(単位：百万円)	
	2024年12期 中間期 (1月-6月)	2025年12期 中間期 (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	2025年12期 1Q (1月-3月)	2025年12期 2Q (4月-6月)	対前四半期 増減	直前四半期比		
売上高	7,707	7,875	+167	+2.2%	3,558	4,316	757	+21.3%		
リード端子事業	4,086	4,149	+63	+1.5%	1,978	2,171	193	+9.8%		
光部品・デバイス事業	3,621	3,725	+104	+2.9%	1,580	2,144	564	+35.7%		
売上総利益	3,176	3,253	+76	+2.4%	1,398	1,854	455	+32.6%		
販売費及び一般管理費	1,387	1,440	+53	+3.8%	728	712	△15	△2.2%		
営業利益	1,788	1,812	+23	+1.3%	670	1,141	471	+70.3%		
営業利益率	23.2%	23.0%	△0.2pt	—	18.8%	26.5%	+7.6pt	—		
リード端子事業	119	342	+223	+187.7%	114	228	+113	+99.0%		
光部品・デバイス事業	1,669	1,469	△199	△12.0%	555	913	357	+64.3%		
経常利益	2,753	1,297	△1,455	△52.9%	301	996	+694	+230.5%		
親会社株主に帰属する 中間(四半期)純利益	1,791	604	△1,186	△66.2%	227	376	+149	+65.4%		
為替レート(期中平均)	152.56円/\$	148.41円/\$			152.56円/\$	144.60円/\$				

2025年12月期業績の見通し

主力2事業ともに下半期は回復。収益改善策が奏功し、過去最高の売上・営業利益となる予定

(単位：百万円)

<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2024年12月期	2025年12月期（計画）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	修正予想の前期実績比	
売上高	15,924	17,919	17,360	+1,436	+9.0%
リード端子事業	8,403	9,298	8,822	+419	+5.0%
光部品・デバイス事業	7,520	8,621	8,537	+1,016	+13.5%
営業利益	3,939	4,586	4,644	+704	+17.9%
営業利益率	24.7%	25.6%	26.8%	+2.0pt	-
リード端子事業	403	746	878	+475	+117.8%
光部品・デバイス事業	3,536	3,839	3,765	+228	+6.5%
経常利益	4,856	4,474	4,216	△640	△13.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,252	3,006	2,538	△714	△22.0%
1株当たり当期純利益（円）	120.50	115.30	97.31		
為替レート（期中平均）	151.69円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$		

※<為替感応度>は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

- ・リード端子事業では売上の回復に加えて、コストダウン効果継続による利益上乗せを期待
- ・光部品・デバイス事業では、海底ケーブル向け受注の回復とファラデー回転子の売上急成長により上半期の調整を下期に挽回予定

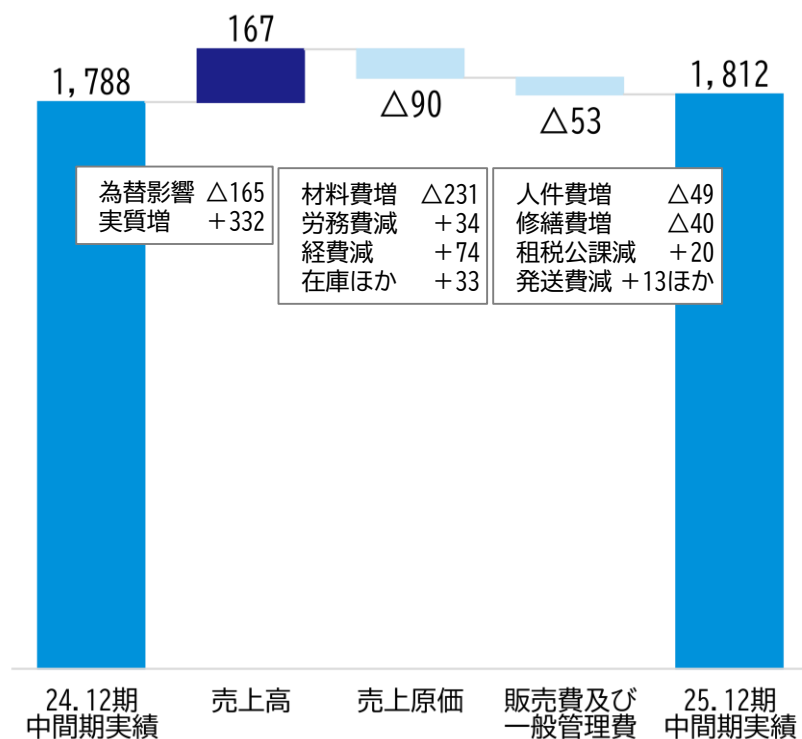
Ⅱ. 2025年12月期中間期 業績

営業利益(中間期)の増減要因

前年同期比

(単位：百万円)

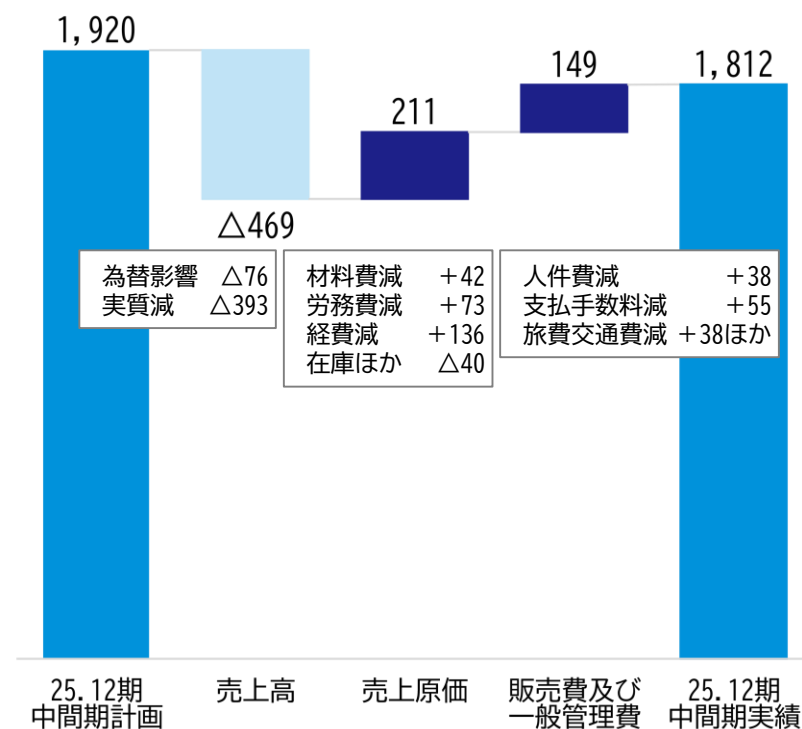
売上の増加がコストアップを吸収し、増益を確保



計画比

(単位：百万円)

売上減少の影響により営業利益は減益で着地



貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書の概要(中間期)

(単位：百万円)

貸借対照表	24年12期末	25年12期中間期末	増減額	主な増減内容
流動資産	18,331	13,859	△4,471	現金及び預金 △2,806、有価証券 △1,701ほか
固定資産	10,353	10,457	+104	投資有価証券 +925、機械装置及び運搬具（純額） △242、リース資産（純額） △224ほか
資産合計	28,684	24,317	△4,367	
流動負債	2,945	1,946	△998	未払法人税等 △755、一年内返済予定の長期借入金 △181ほか
固定負債	2,309	2,108	△200	リース債務 △190ほか
負債合計	5,254	4,054	△1,199	
純資産合計	23,430	20,262	△3,168	資本剰余金 △2,261、利益剰余金 △204、為替換算調整勘定 △506、自己株式 △211ほか
負債・純資産合計	28,684	24,317	△4,367	

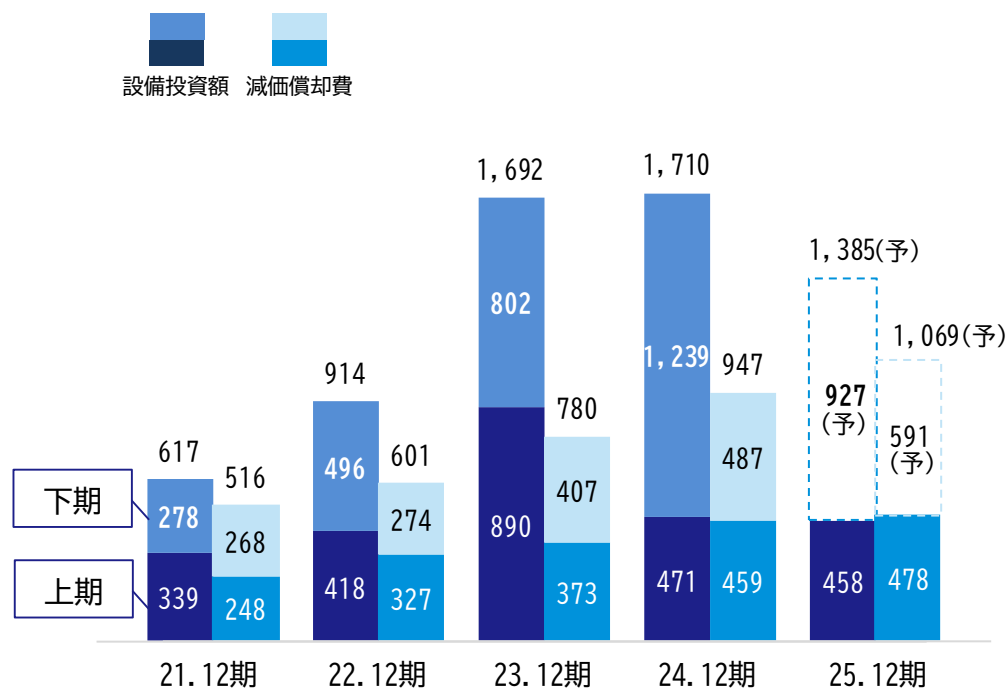
キャッシュ・フロー計算書	24.12期中間期	25.12期中間期	25.12期中間期の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	1,710	803	税金等調整前中間純利益 +986、減価償却費+478、売上債権の増加額 △467、為替差損 +230、棚卸資産の減少額 +201
投資キャッシュ・フロー	△311	△342	定期預金の払戻による支出 +1,083、投資有価証券の取得による支出 △1,061、有形固定資産の取得による支出 △388
フリーキャッシュ・フロー	1,399	461	
財務キャッシュ・フロー	△1,276	△3,550	自己株式の取得による支出 △2,490 配当金の支払額 △809
現金及び現金同等物の増減額	426	△3,278	
現金及び現金同等物の期末残高	10,865	6,520	

設備投資額・減価償却費

ファラデー回転子ほか新製品・新技術に重点投資

米原事業所への投資の後ずれにより期初計画（2,613百万円）を減額修正

設備投資額・減価償却費（百万円）



設備投資の実績と今期計画

中間期の主な投資内容

光部品・デバイス事業

- ・ファラデー回転子能力増強（133百万円）
- ・スリランカ自動化投資（95百万円）

リード端子事業

- ・レーザー溶接量産試作（5百万円）

共通部門

- ・基幹情報システム関連（93百万円）

下半期の見通し

光部品・デバイス事業

- ・光デバイス後工程能力増強
- ・ファラデー回転子能力増強
- ・高純度石英ガラスの生産能力増強

リード端子事業

- ・レーザー溶接量産試作
- ・高付加価値製品能力増強

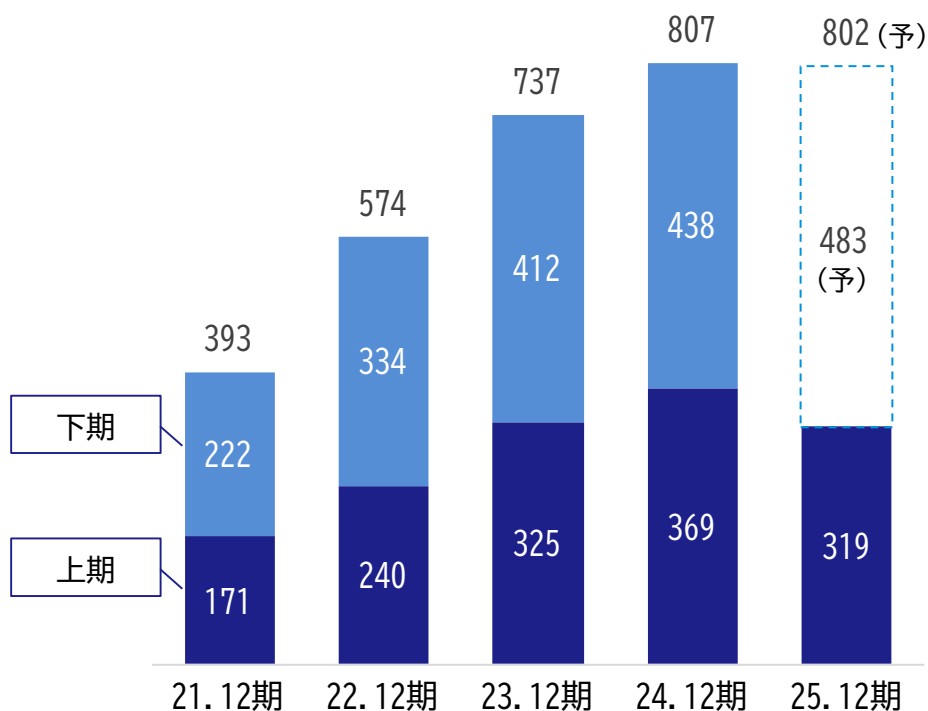
共通部門

- ・基幹情報システム関連

研究開発

海底ケーブル用デバイスの開発に加えて、衛星通信、次世代光デバイス等将来技術の開発に注力

研究開発費（百万円）



主な研究開発内容

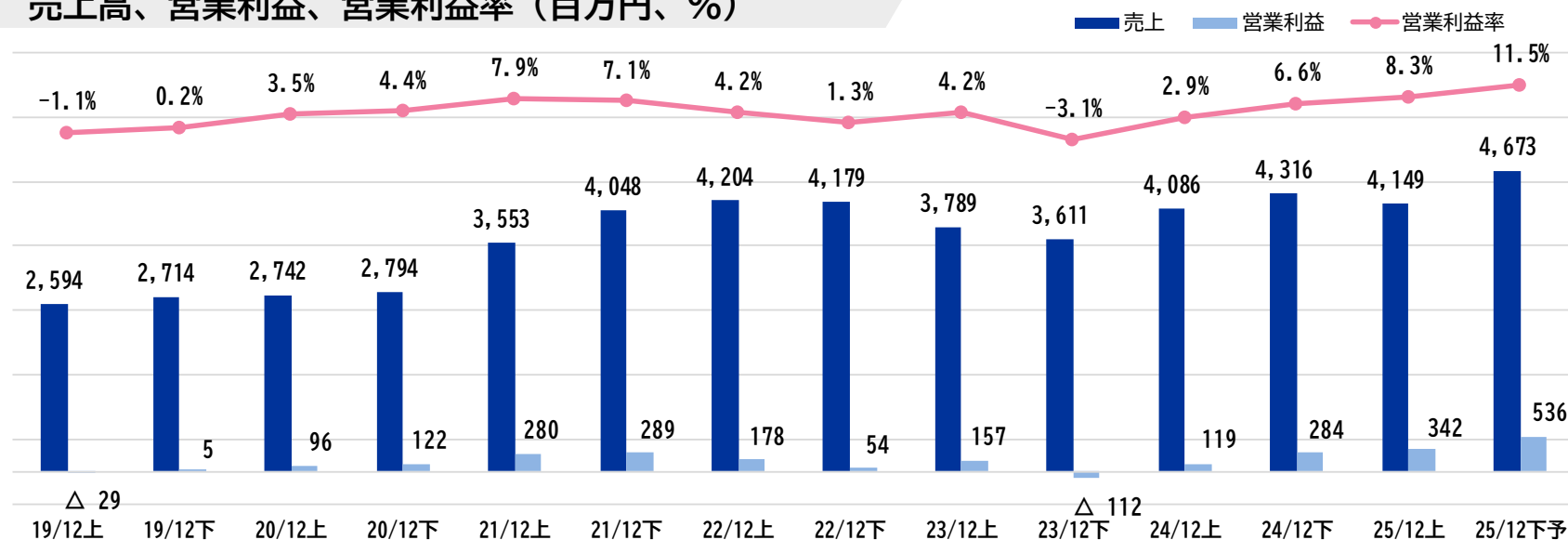
- 海底ケーブル用光モジュール開発・試作
- 生成AI・データセンタ向け次世代ファラデー回転子開発
- 低軌道衛星通信（LEO）用各種光デバイス開発
- 宇宙空間用ハイパワー光モジュール開発
- 半導体製造装置向けほかSSG®製品及び量産技術開発
- 次世代高信頼・高機能リード端子向けレーザー溶接技術開発

セグメント別業績(中間期)

- 前半は欧州自動車市場の調整が長引いたが、高付加価値製品の売上増もあり、春以降は回復傾向
- 一昨年からの生産体制再編及び生産効率改善活動により収益力は改善

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2024年12月期 中間期 (1月-6月)	2025年12月期 中間期 (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	2025年12月期 1Q (1月-3月)	2025年12月期 2Q (4月-6月)	対前四半期 増減	直前四半期比	
売上高	4,086	4,149	+63	+1.5%	1,978	2,171	+193	+9.8%	
営業利益	119	342	+223	+187.7%	114	228	+113	+99.0%	
営業利益率	+2.9%	8.3%	+5.3pt	—	5.8%	10.5%	+4.7pt	—	

売上高、営業利益、営業利益率(百万円、%)

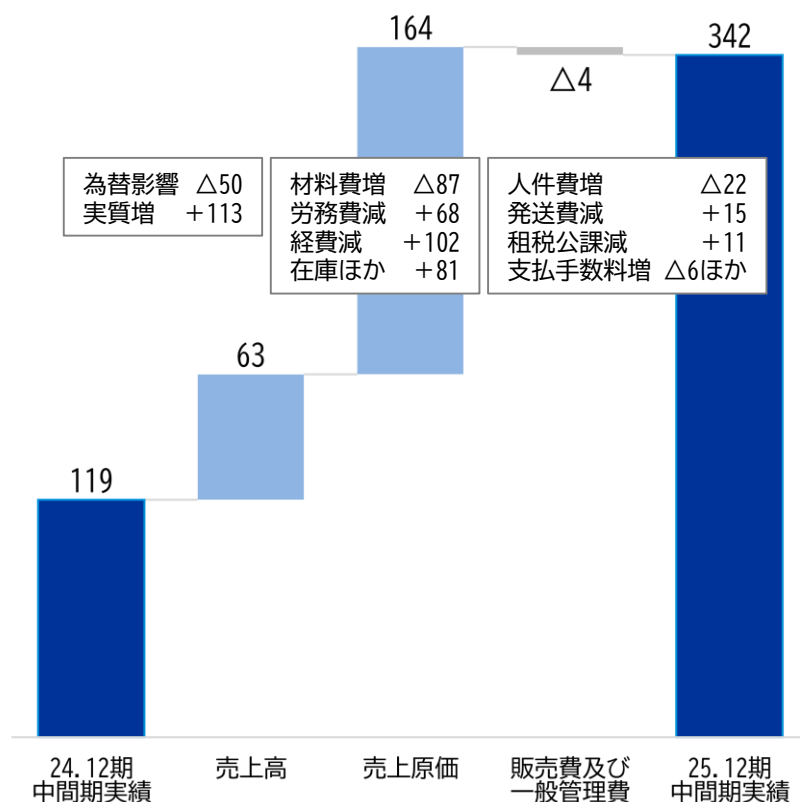


営業利益(中間期)の増減要因

前年同期比

(単位：百万円)

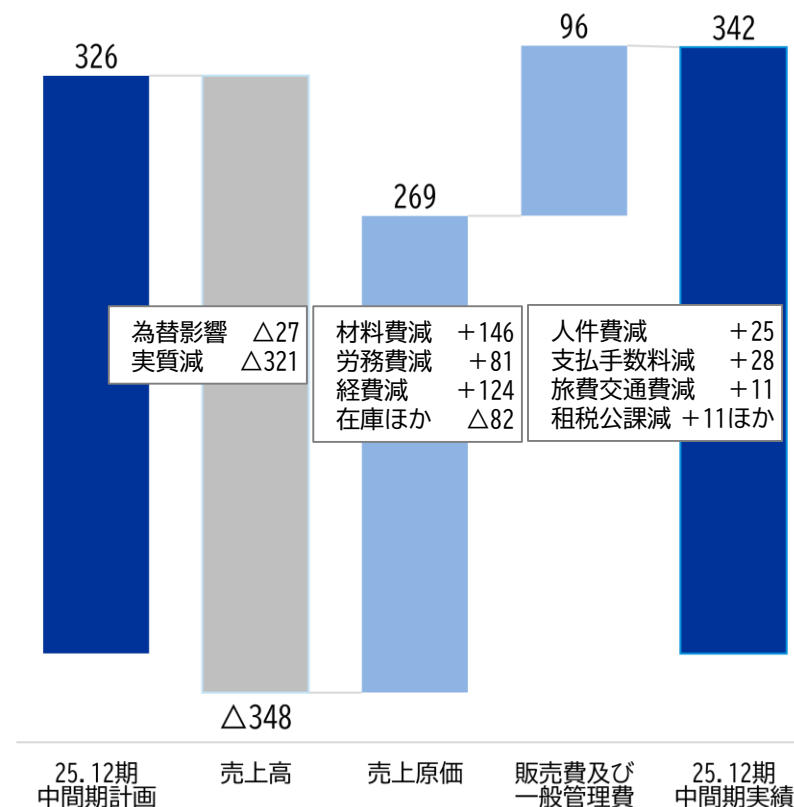
売上の回復は緩やかだが、損益面では改善が進んだ



計画比

(単位：百万円)

歩留り向上等により、売上減少を上回る収益改善



リード端子事業の見通し

売上は緩やかながら回復基調を継続、下期売上は前年比 **+8.3%の見通し**
 利益面では、計画比前倒しのコストダウンを下期も継続、期初計画に対して利益上乘せ

セグメント業績

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	8,403	9,298	8,822	+419	+5.0%
営業利益	403	746	878	+475	+117.8%
営業利益率	4.8%	8.0%	10.0%	+5.2pt	—

<2025年12月期下半期以降の見通し>

- ・主力の自動車市場向けは回復を見込むが米国通商政策の影響により不透明な状況続く
- ・国内外共に受注は回復傾向、生成AI・データセンタ市場の拡大を見込む
- ・高機能アルミ電解コンデンサのラインアップ拡充に合わせてリード端子の高付加価値製品の売上拡大を見込む
- ・生産効率改善などにより収益力は下半期さらに改善、営業利益率10%を達成する見通し

リード端子事業におけるROIC指標改善への取組

改善項目	改善テーマ・KPI	実施内容、成果
売上原価・販管費削減	1. 新商品(付加価値商品) 売上比率向上 2. 歩留り改善、生産性向上	1. 新商品売上比率 15.4%⇒22% 漏れ電流低減・抵抗低減対策品・バリレス品 2. 歩留り改善、生産性向上 (1) 不良率 : 50%削減(半減) (2) OEE(設備総合効率): 3ポイント向上 (3) 製造原価: 4ポイント低減
運転資本回転率向上	キャッシュコンバージョンサイクルの改善	1. 売上債権サイトの短縮 日本: 120日後⇒60日後 海外(一部): 90日後⇒60日後 2. 買入債務サイトの延伸 仕入先(一部): 30日後⇒60日後
資産回転率向上	棚卸資産の削減	1. 製品在庫・材料在庫の削減 (1) 製品在庫 1.3ヶ月分 ⇒ 1.0ヶ月分 (2) 材料在庫 0.9ヶ月分 ⇒ 0.6ヶ月分

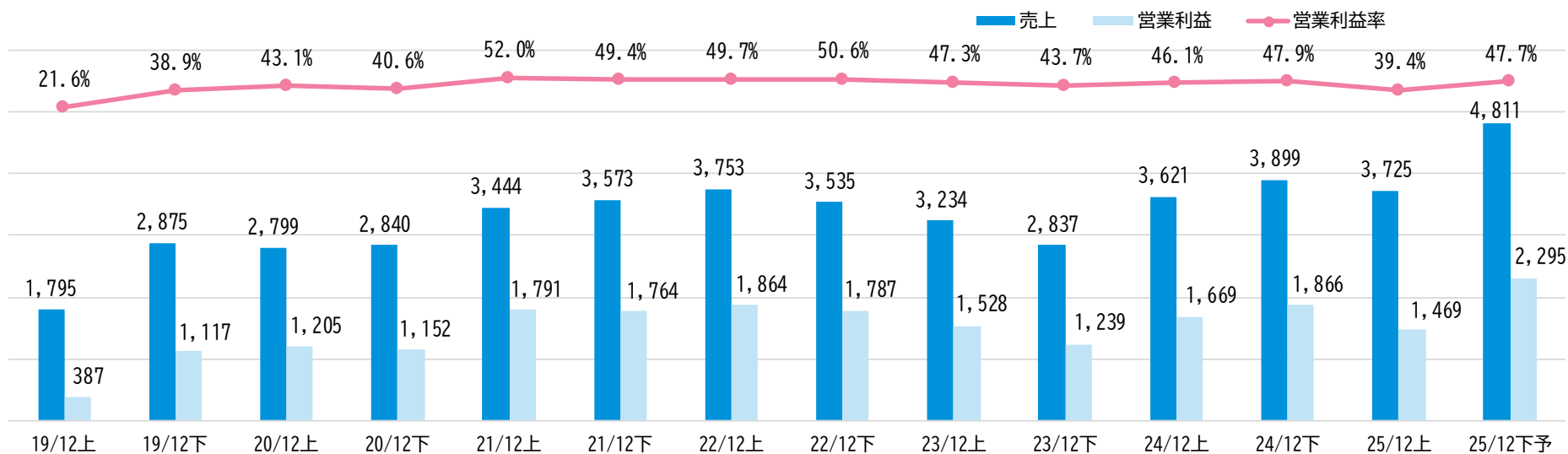
継続的な取組により、2027年の営業利益率目標の上乗せを目指す

セグメント別業績(中間期)

売上は前年同期比増加したが、製品構成の変化や為替レート変動に伴い若干の減益となった
前半の個別要因による調整は一段落、2Qの売上は大きく増加

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2024年12月期 中間期 (1月-6月)	2025年12月期 中間期 (1月-6月)	対前年同期 増減	前年同期比	2025年12月期 1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	2025年12月期 対前四半期 増減	直前四半期比	
売上高	3,621	3,725	+104	+2.9%	1,580	2,144	+564	+35.7%	
営業利益	1,669	1,469	△199	△12.0%	555	913	+357	+64.3%	
営業利益率	46.1%	39.4%	△6.6pt	—	35.2%	42.6%	+7.4pt	—	

売上高、営業利益、営業利益率（百万円、％）

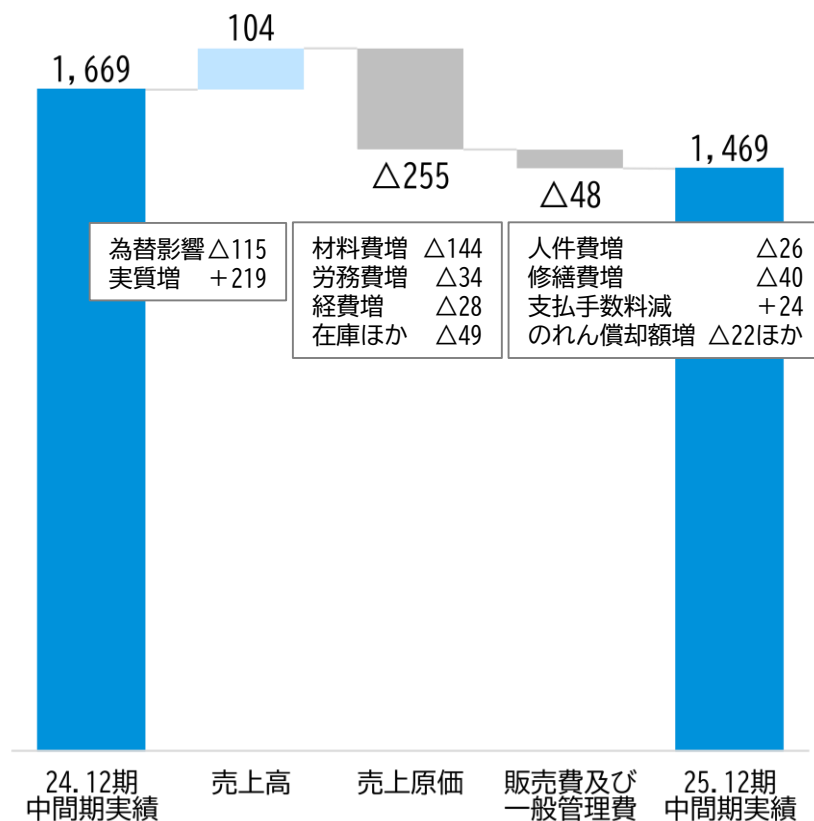


営業利益(中間期)の増減要因

前年同期比

(単位：百万円)

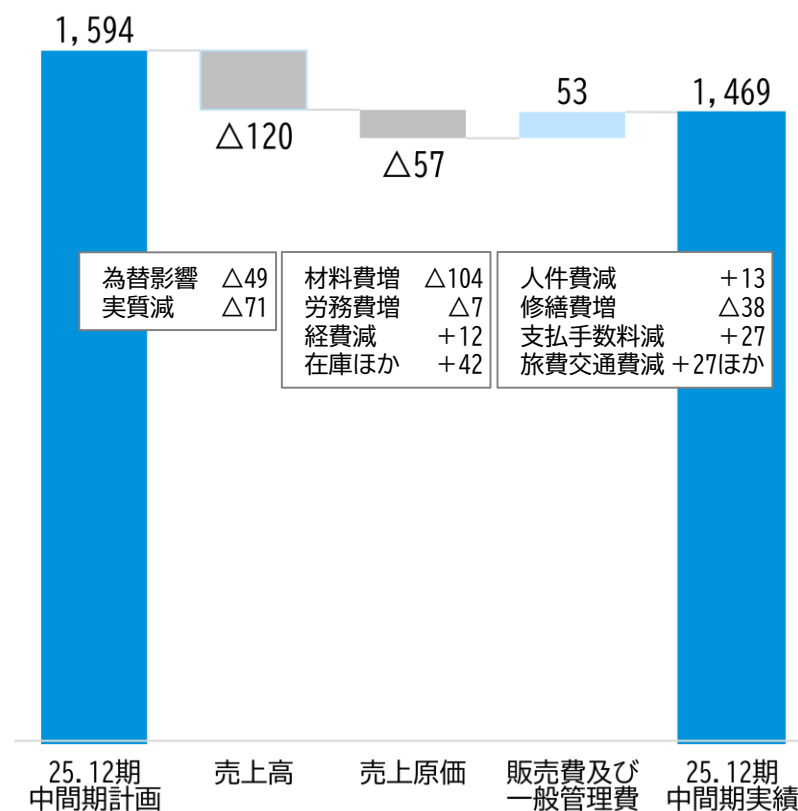
売上はプラスを維持したが、材料費増加等により若干の減益となった



計画比

(単位：百万円)

一部顧客の発注調整に伴う売上減により若干の減益



光部品・デバイス事業の見通し

情報通信容量拡大の流れの中で、一部顧客から追加受注が発生

(単位：百万円)

	2024年12月期	2025年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	7,520	8,621	8,537	+1,016	+13.5%
営業利益	3,536	3,839	3,765	+228	+6.5%
営業利益率	47.0%	44.5%	44.1%	△2.9pt	—

<2025年12月期下半期以降の見通し>

- ・ 海底ケーブル新規プロジェクトの件数、距離、通信容量が増加傾向、光デバイスの需要もグローバルに増加の見通し
- ・ 小型化、モジュール化などの多芯化のニーズ進行、マルチコアファイバ化の開発も進む
- ・ 2026年に向けての光アイソレータ・光フィルタの引き合いも堅調
- ・ レアアース等材料価格の高騰の影響は軽微、売上増加に伴う収益改善を見込む

Ⅲ. リード端子事業の動向及び戦略

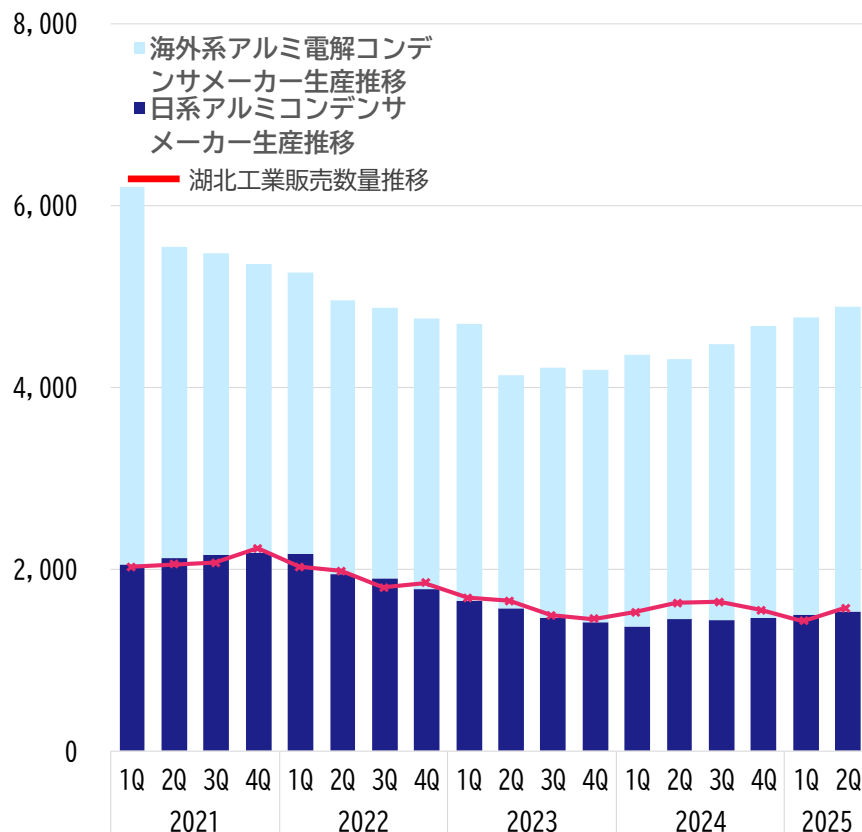
2025年12月期(中間期)の事業環境

アルミ電解コンデンサは、グローバル生産の調整が終了し回復傾向

小型アルミ電解コンデンサのグローバル
マーケットと当社の販売数量推移

市場動向・営業施策

(百万個)



<自動車関連市場>

- 2024年後半の欧州自動車市場の調整は一巡し、国内市場の回復もあり全体として回復傾向だが、今後の米国通商政策の影響については不透明な状況
- アルミ電解コンデンサメーカー各社の高機能製品の開発が加速、高付加価値リード端子の引き合いが増加

<生成AI・DC市場>

- 日系コンデンサメーカー各社が、生成AI・DC向けに新製品の開発を強化
- 漏れ電流特性を重視したリード端子の需要増

<グローバル営業体制強化>

- 本社と海外生産拠点の連携強化、高付加価値リード端子のグローバル市場での顧客サポート、マーケティングを強化

※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示

※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

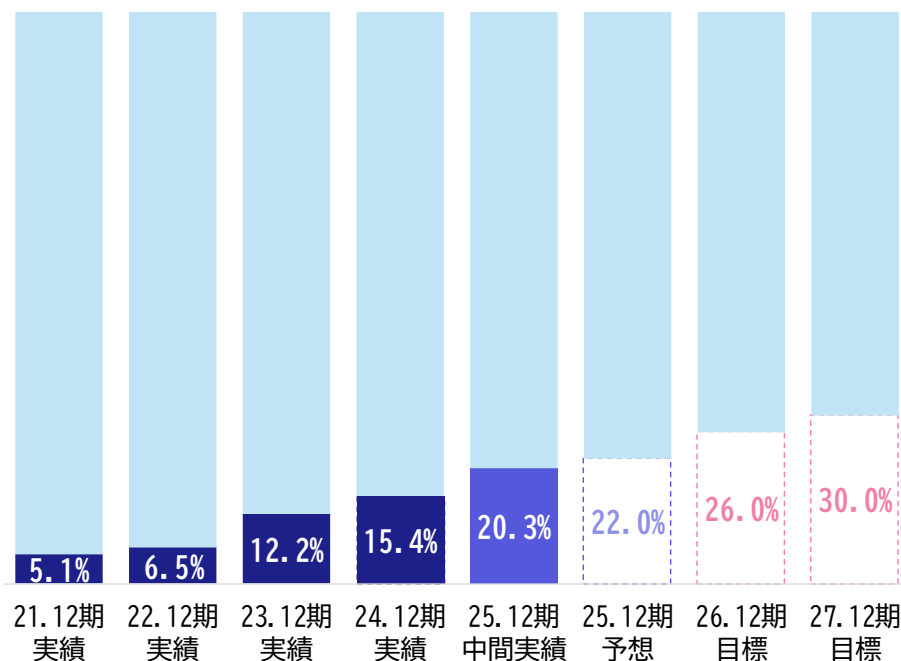
市場開拓による事業規模の拡大

高付加価値製品の売上比率改善進む

高付加価値製品の売上比率

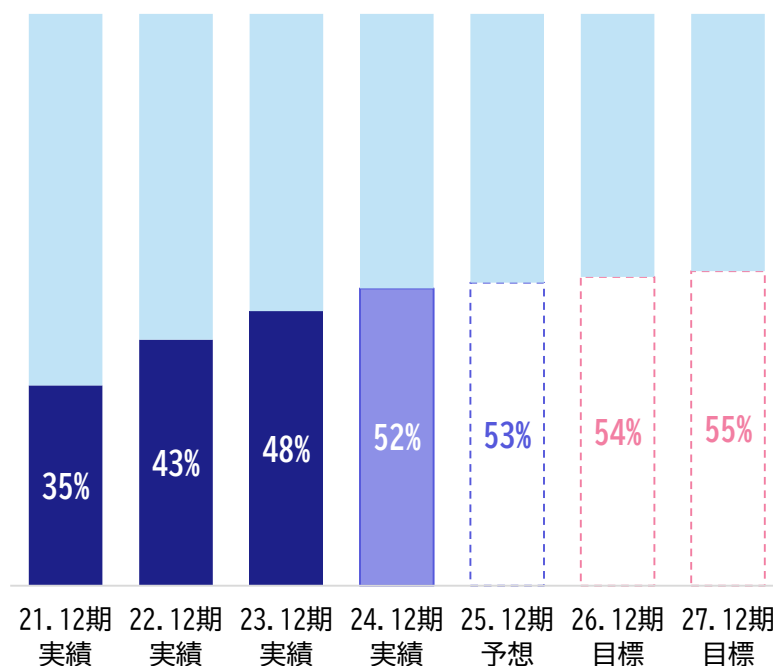


- ・売上比率は緩やかに上昇
- ・バリレス、EDLC向けほか各アイテムの売上増加
- ・高機能コンデンサ向けに漏れ電流対策を強化



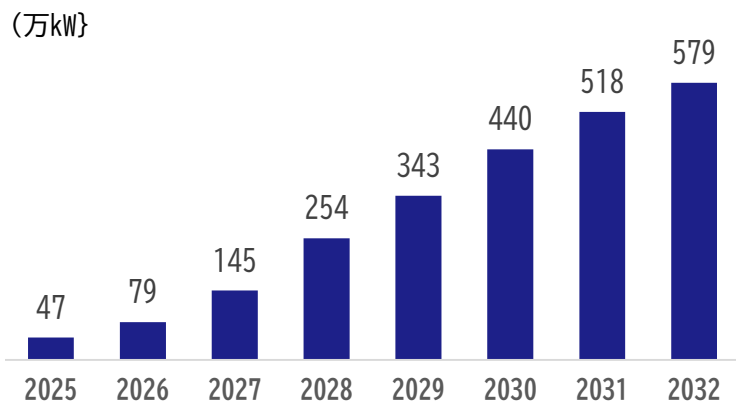
自動車市場向け売上比率（推定値）

- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



AIサーバ、データセンタ向けに高機能アルミ電解コンデンサの需要が拡大

生成AI・データセンタ市場の電力需要見通し



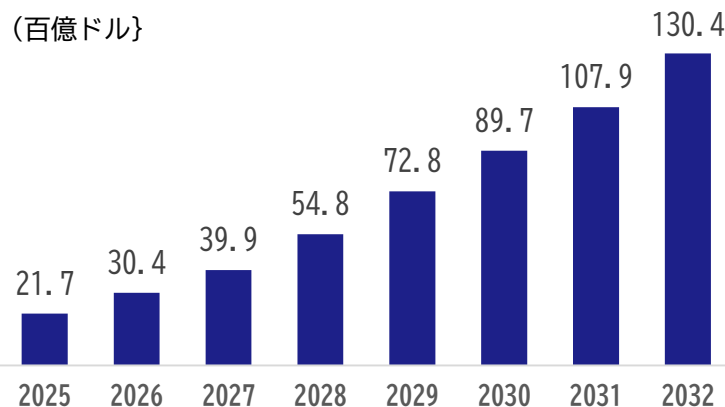
AI・データセンタの課題

- ・ GPUの高速化に伴う消費電力量の飛躍的増加
- ・ サーバラック構成の増加による配電システムの複雑化
- ・ 無停電電源設備、非常用発電設備の構築
- ・ データセンターごとに膨大な数のサーバー設置と電源管理が必要



データセンターにおける消費電力量削減と発熱対策が極めて重要な課題

世界の生成AI市場規模の推移及び予測



アルミ電解コンデンサの特性向上が貢献！

<求められるコンデンサ特性>

- ・ 漏れ電流特性
- ・ 高静電容量
- ・ 高リップル（低ESR）
- ・ 耐温度特性



導電性固体コンデンサ、ハイブリッドコンデンサの需要が大幅に伸びると予想

<高付加価値製品の採用拡大>



- ・ 樹脂コーティング
- ・ 特殊化成品
- ・ バリレス ほか

※グラフは総務省令和6年版情報通信白書より引用

当社の状況と収益改善への取組み

当社の経営環境

	2025/12期予想（当初コメント）	2025/12期中間期の状況	2025/12期3Q以降の見通し
(1) 生産	- 東莞をさらに増強し収益力を改善（2025年年間生産比率 KECD50%、KECS30%、KEM20%） - 引き続き歩留り・可動率改善、切替ロス削減を進める	- 東莞工場を引き続き増強、6月時点の生産比率は約40% - 歩留まり改善等、各拠点における収益改善策が計画に対し前倒しで進捗	- 東莞工場を引き続き増強、年度末には生産比率50%に引き上げ予定 - さらなる生産効率とOEE改善を進め、収益力を強化する
(2) 売上	- 海外自動車市場に向けての顧客サポート、マーケティングを強化 - バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売を強化	- 海外工場への営業サポート、技術提案を強化中、海外でも漏れ電流特性改善等のニーズが高まっており、引き合い増加 - バリレスの評価が徐々に進捗、その他の高付加価値品の受注増加と併せて順調に販売比率が上昇	- 中国等海外での営業体制を強化する - バリレスほか、漏れ電流低減・低抵抗に貢献する高機能リード端子の販売に引き続き注力
(3) 技術	- レーザー溶接新技術、量産品試作に向けて開発拠点を本社に移管 - 漏れ電流低減リード端子の開発	本社工場でレーザー溶接技術の開発加速	2025年末までにEDLC用リード端子のサンプル出荷目標

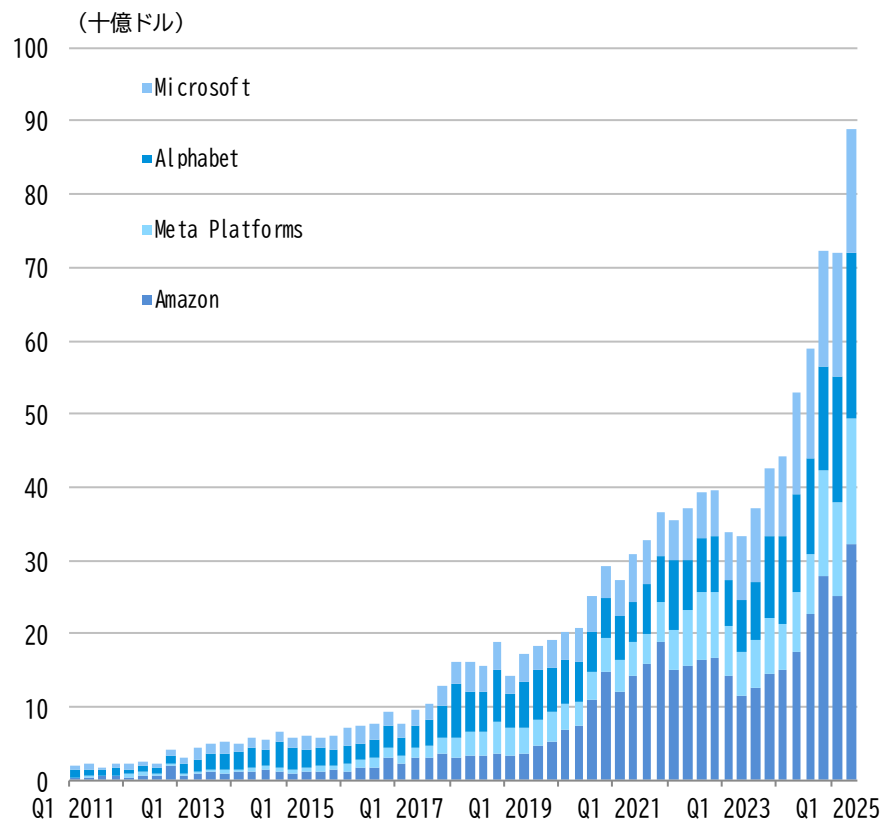


IV. 光部品・デバイス事業の動向及び戦略

2025年12月期の事業環境

生成AI・DC需要の急激な拡大などにより、活発な投資が続く

米国クラウド事業者の設備投資



(出所：会社資料)

市場動向

- 海底ケーブルプロジェクトへの投資は引き続き好調
- 上半期に発生した一部顧客における発注調整は終了し、下期は正常化
- 多芯化に対応し、小型光アイソレータの需要が増加
- データセンタ向け光部品の需要は引き続きひっ迫した状況で推移
- 2026年の納入に向けて新規海底ケーブルプロジェクト向けの引き合いが増加
- 大容量化に向けて、多芯化、マルチコアファイバー化に加えてワイドバンド化の動き
- 米国が公表した「海底ケーブルの中国技術規制」については、光アイソレータ/フィルタ市場への影響は無いと予想

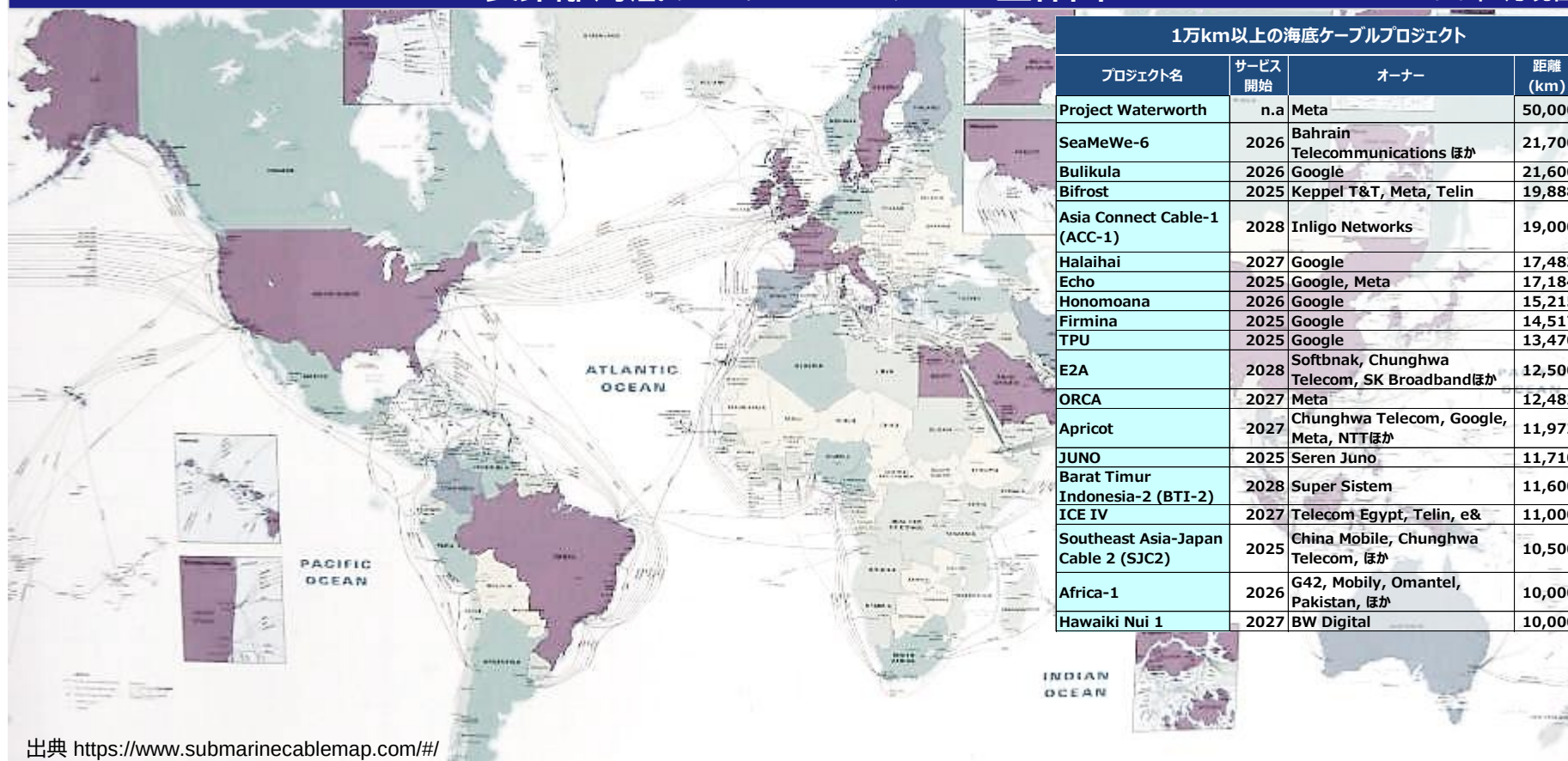
新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

新規プロジェクト投資の発表が続く中、大型化の傾向が見られる

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図

2025年7月現在



出典 <https://www.submarinecablemap.com/#/>

※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

当社の状況と収益改善への取組み

当社の経営環境

	2025/12期予想（当初コメント）	2025/12期中間期の状況	2025/12期3Q以降の見通し
(1)製品開発	● 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定 ● 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大 ● PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行	➤ 提出サンプルの評価フィードバックを受け、改善中。 ➤ 小型アイソレータの採用顧客増加 ➤ 設備投資、開発計画見直し	➤ 開発、ライフテスト完了は2026年の後半の予定。本格売上は2027年からとなる見通し ➤ 小型アイソレータの生産増強 ➤ 米国での開発リソース強化、開発スピード改善 ➤ 衛星通信用などに高信頼性光デバイスの拡販及び引き合いに対応
(2)生産性他	● 半自動装置2号機を5月から立ち上げ、年度末に対象工程の80%を自動化 ● データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加 ● 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加	➤ 半自動装置の立ち上げ完了 ➤ 設備増強により生産能力大幅増強、F R製品の売上は前年比2.5倍に増加 ➤ 引き合い増加に対応して、生産能力増強に向け準備中	➤ スリランカ工場での半自動装置で生産拡大、生産可能アイテムを拡大 ➤ 今期のFR製品の売上は3倍強に増加の見通し ➤ 来期以降の生産能力拡大に向けて引き続き準備を進める

市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

海底ケーブルの多芯化進行に合わせてフルラインアップの品ぞろえで取り組む

情報通信容量拡大に伴う
海底ケーブルの進化

2020年 2025年 2026年 2027年 2035年

主要海底ケーブルの
ファイバーペア数

8FP 16FP 24FP 32FP以上

ファイバーペア数の
増加に対応した
技術進化

8FP

16FP

従来型アイソレータ

24FP

32FP

小型光アイソレータ

32FP以上

複合品+モジュール

ワイドバンド化による
データ伝達容量の拡大

現状

Cバンド
1530nm~1560nm

Cバンド + Lバンド

1530nm~1560nm 1565nm~1610nm

ファイバ1本ごとの
伝送容量が2倍に！

ワイドバンド化

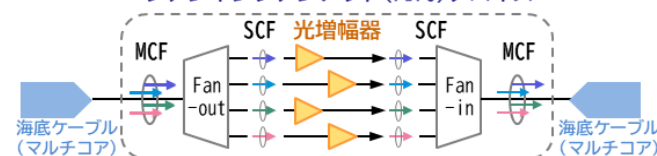
広帯域対応海底ケーブル
用光アイソレータ

海底ケーブル
マルチコアファイバ

MCF（2コア）

MCF（4コア）

ファンインファンアウト(FIFO)デバイス



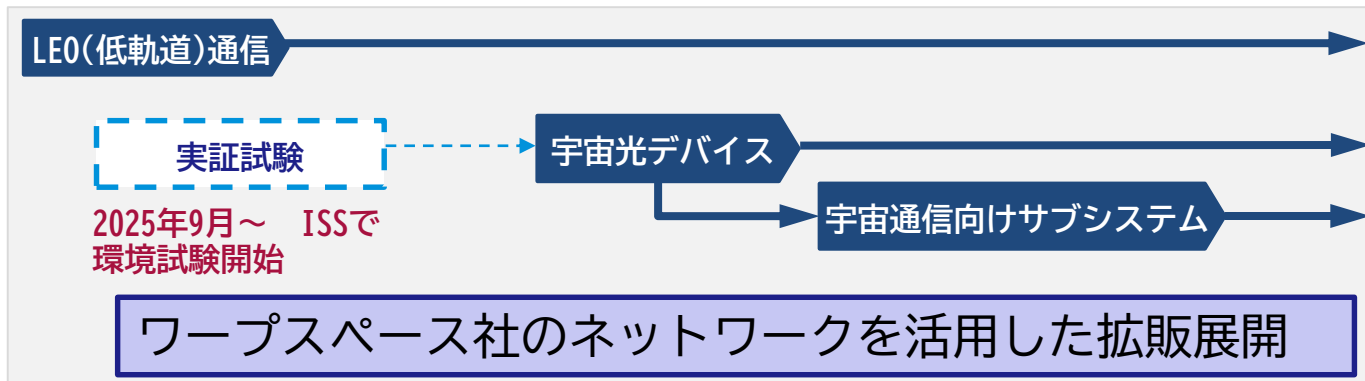
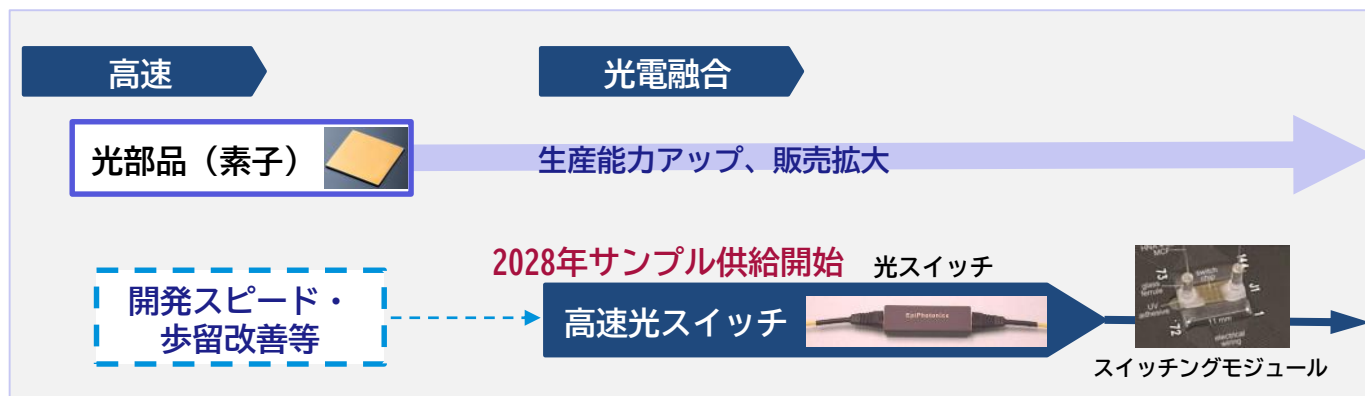
FIFOデバイス

MCF光アイソレータ
MCF光フィルタ

市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

次世代海底ケーブル向けマルチコアファイバに加え、生成AIデータセンタ、宇宙通信領域へ進出

2025年 ————— 2027年 ————— 2030年 ————— 2035年



高純度石英ガラス「SSG®」事業の進捗状況

引き続き半導体関連各社等から引き合いが増加、生産能力増強を急ぐ

スラリーキャスト法で製造する第3の石英ガラス「SSG®」

石英ガラスの出発原料となるガラス粉末をスラリー（固体粒子と液体が混合された流動体）化させたものを金型に注入、常温で乾燥しその後焼結、石英ガラス化することにより、幅広い波長の光透過性と耐化学物質性を実現。

液体が石英ガラスに

- ① シリカ粒子をスラリー化 ② 金型成型・乾燥 ③ 焼結炉で焼結



特徴

- (1) 金型にスラリーを注入する方式により、成型の自由度が極めて高く、同一形状の量産も可能
- (2) インゴットの切削加工による成型に比べて材料ロスが少ない
- (3) 常温成型のため省エネルギー
- (4) 金型の形状、大きさなどによる制約あり

金型の設計により様々な形状の成型が可能



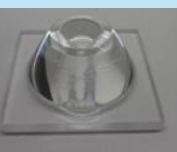
石英リング



特殊ファイバ
プリフォーム



各種形状のレンズ



石英ガラスの種類と製造方法

SSG®（第3の石英ガラス）

石英ガラスの出発原料となるガラス粉末をスラリー（固体粒子と液体が混合された流動体）化させたものを常温で乾燥、その後焼結して作製

- ・ 金属不純物含有量：ppb（十億分の1）レベル
- ・ 無水合成石英と同等レベルの広い波長領域での光透過が機能

溶融石英 … 天然石英を電気や酸水素炎で加熱・溶融して作製

① 電気溶融

- ・ 数～数十ppmの金属不純物を含有
- ・ 耐熱温度は高い
- ・ 紫外線の透過性が悪い

② 酸水素炎で加熱・溶融

- ・ 金属不純物は電気溶融よりも少ない
- ・ 耐熱温度は電気溶融よりも低い
- ・ 紫外線の透過性は電気溶融よりも高い

合成石英 … 液体原料（ SiCl_4 ：四塩化ケイ素）から合成して作製

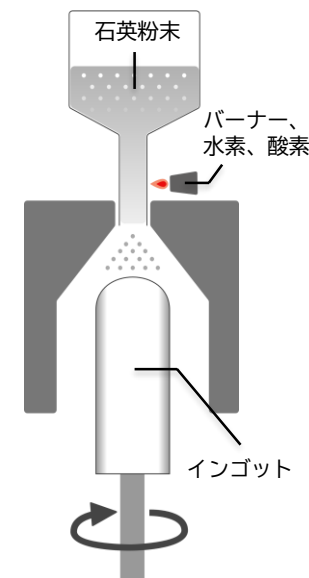
① シラン化合物を酸水素炎で加水分解、生じたガラス微粒子を直接堆積・固化して作製

- ・ 200～1,000ppmの水酸基を含む
- ・ 金属不純物が1ppm以下まで低減できる
- ・ 紫外～深紫外波長域の透過性に優れる
- ・ 耐熱温度は溶融石英よりも低い

② シラン化合物を水酸基が生成しない条件で分解、生じたガラス微粒子を堆積・固化して作製

- ・ 水酸基を殆ど含まない為赤外透明性に優れる

溶融石英の製造方法例 （火炎溶融法）

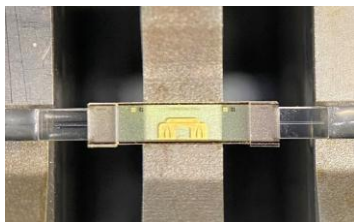


※溶融石英及び合成石英に関する内容、イラストは「ガラス工学ハンドブック」（朝倉書店）「ガラスの百科事典」（朝倉書店）を参考にして当社が作成したものです。

次世代光デバイス開発動向（EpiPhotonics社での開発状況）

開発スケジュール変更、設備更新、人員増強等により製品化を急ぐ



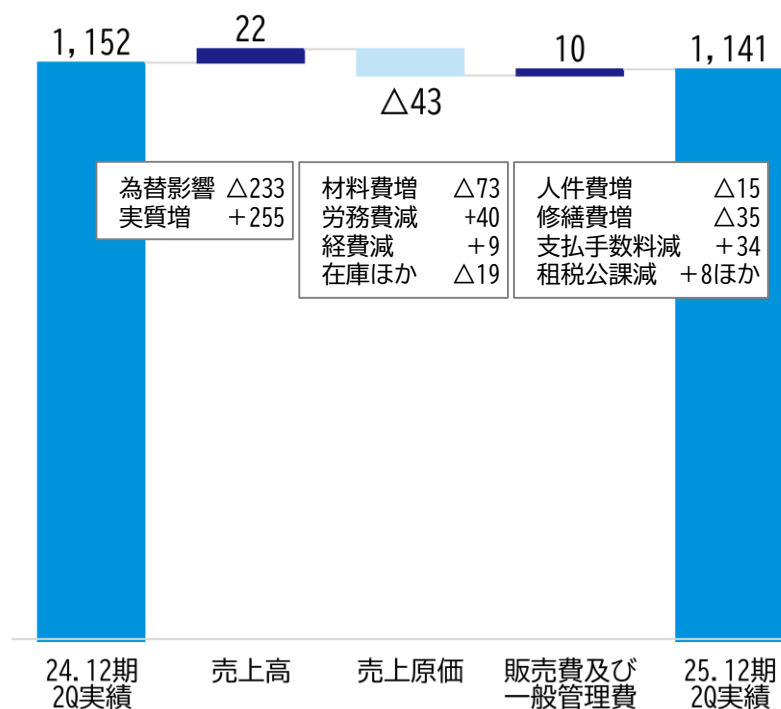
買収時点の目標	現在の状況	対策	修正目標
・ 2026年サンプル出荷開始 <売上高1億円目標> 	・ 試作工程でのリードタイム悪化に伴い開発試作スケジュール遅延 ✓ エッチング他装置の老朽化に伴う回路形成の遅れ ✓ PLZT成膜プロセスの標準化遅れ 開発スケジュールの遅れ、設備の移管更新スケジュール等を考慮し事業計画を再構築、減損損失を計上	・ デバイスエンジニアの人員増や外部設備の活用等による開発スピード改善 ・ 試作プロセスを順次本社工場に移管し、PLZT成膜プロセスを安定化 ・ エッチング、スパッタ他歩留まり改善 安定したモノ作り技術の確立 歩留り改善	2028年 サンプル供給体制の 確立を目指す <ターゲット分野> ・ AI・DC関連 ・ 宇宙分野 ・ 先端技術研究機関等

V. 参考情報

営業利益 2Q（4－6月）の増減要因

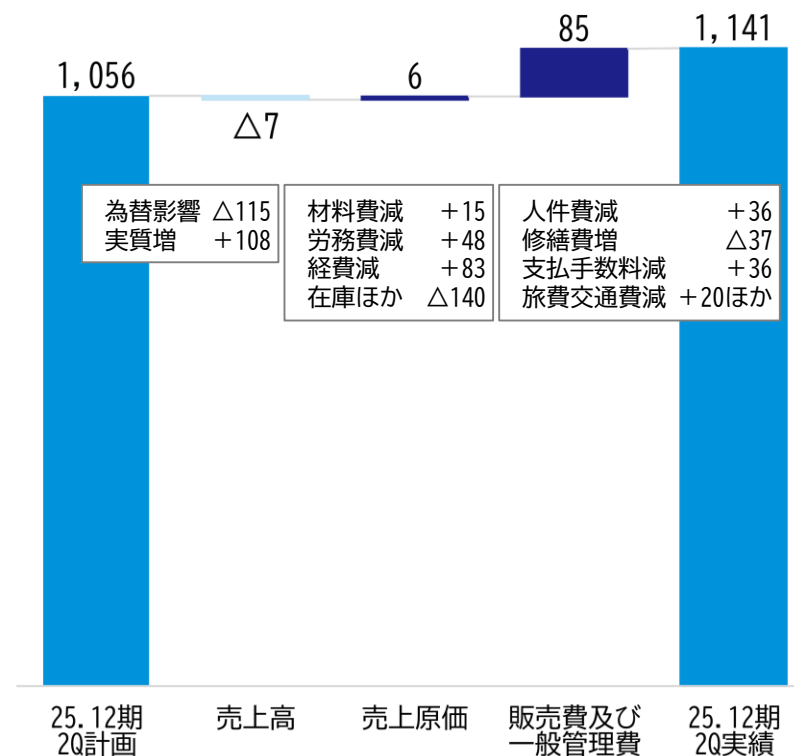
前年同期比

（単位：百万円）



計画比

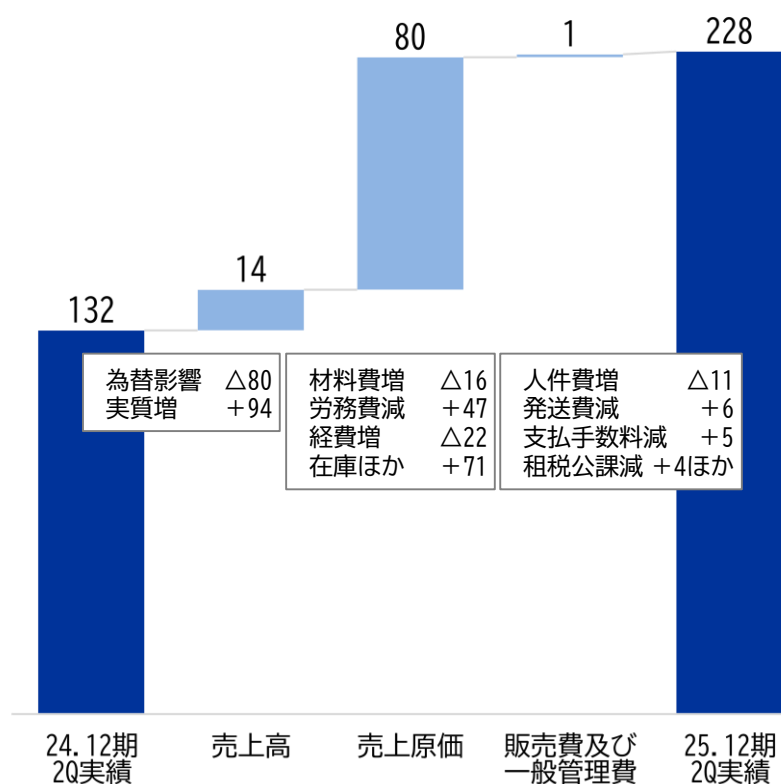
（単位：百万円）



営業利益 2Q（4－6月）の増減要因

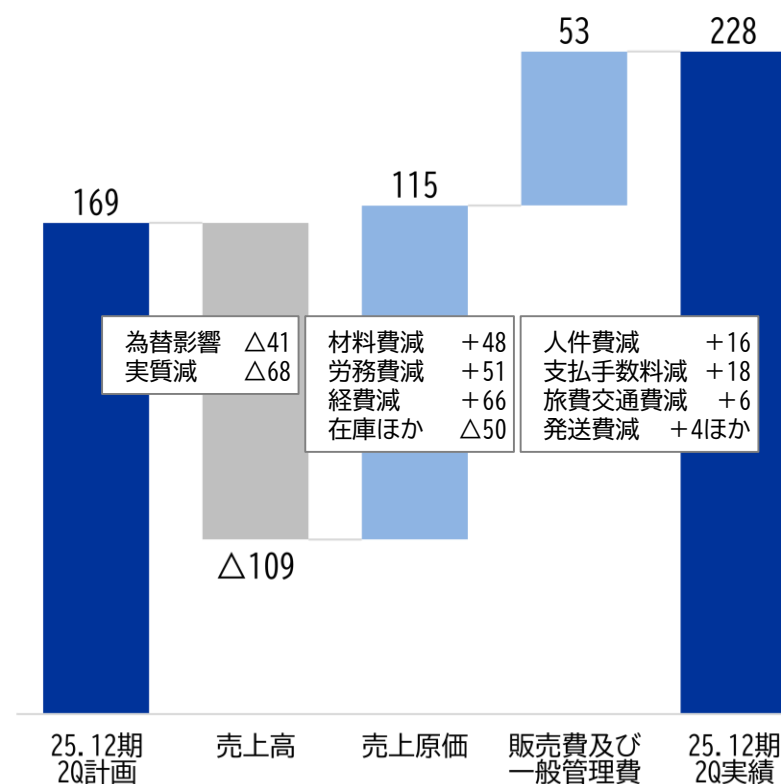
前年同期比

（単位：百万円）



計画比

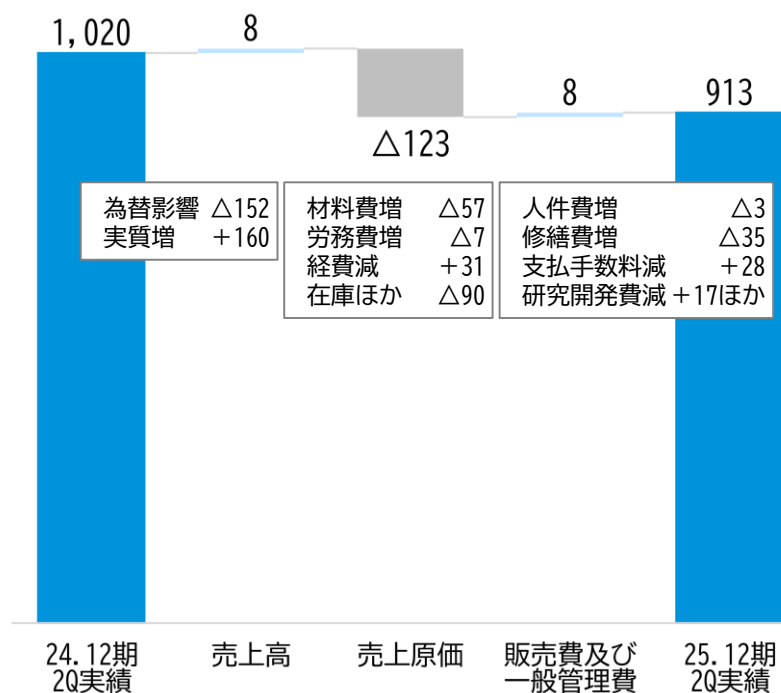
（単位：百万円）



営業利益 2Q（4－6月）の増減要因

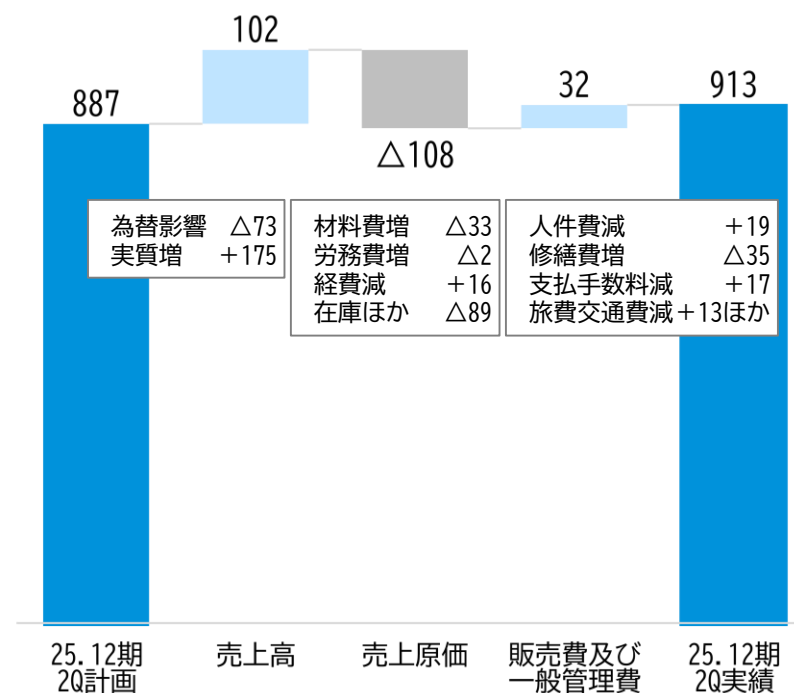
前年同期比

（単位：百万円）



計画比

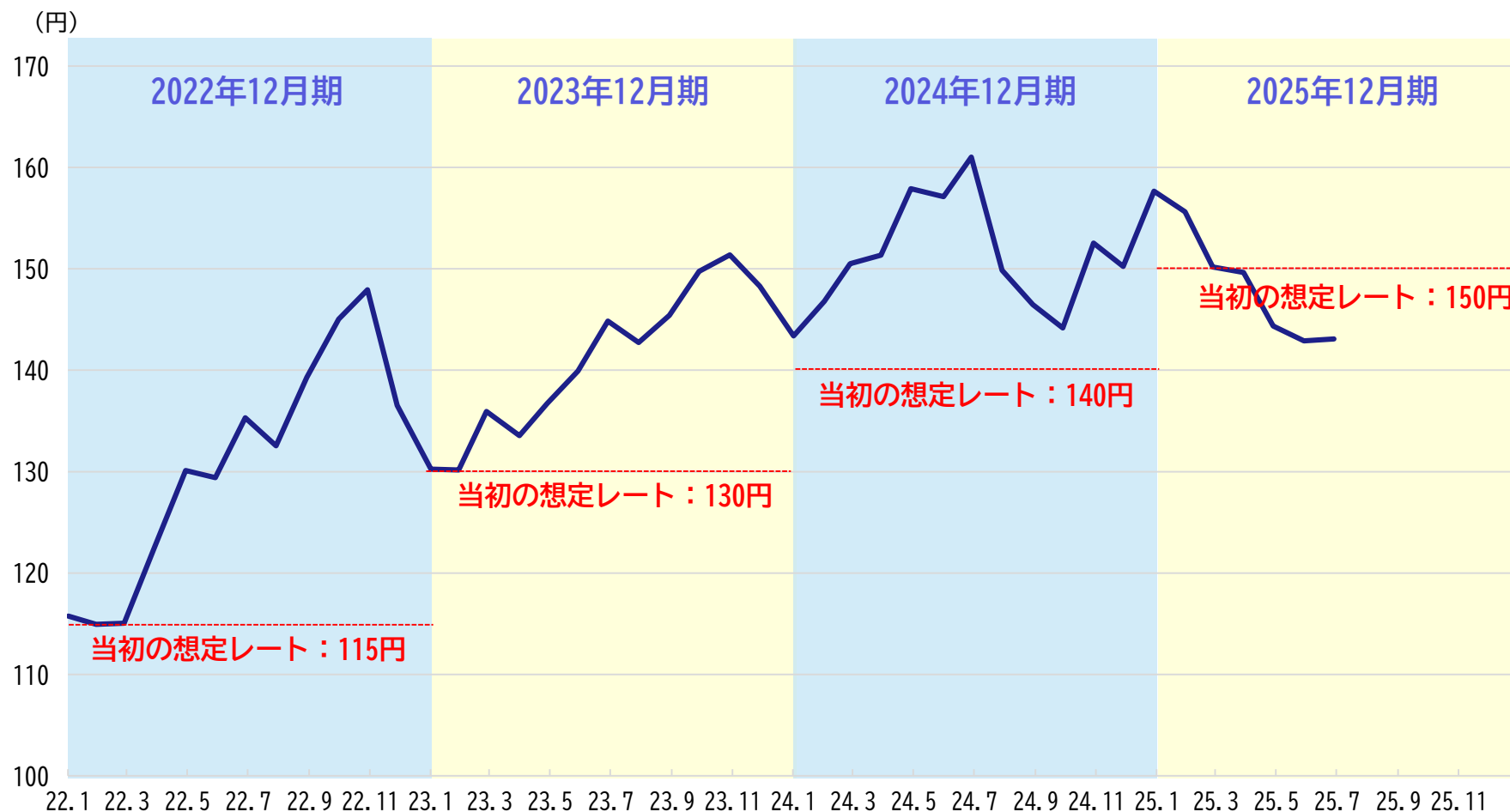
（単位：百万円）



2025年12月期(中間期)の事業環境

中間期の期中平均レートは、144.60円/USD、前期末158.17円/USDから円高傾向

USD/JPYトレンドグラフ



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は上昇の兆し、原則3か月後に価格転嫁

非鉄金属相場（LME）の推移

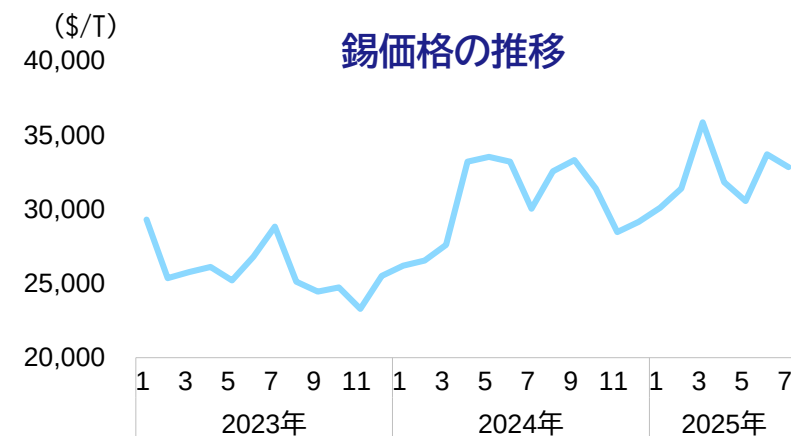
アルミ価格の推移



銅価格の推移



錫価格の推移



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当
E-mail ir@kohokukogyo.co.jp
TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217